

平成25年度 五泉市算数部 活動報告

部長 水藻 正美

1 研修のねらい

授業研究や情報交換を通して、授業力の向上を図る。

2 研修の概要

4月17日(水) 第1回研修 年間活動計画, 役割分担

6月26日(水) 第2回研修 講話 「算数授業のここを変えたい」

講師 元見附市立名木野小学校長 本間 往徳 様

9月11日(水) 第3回研修 指導案検討会

10月 9日(水) 第4回研修 授業研究

3 研修の実際

① 第2回研修 6月26日(水)

講師 元見附市立名木野小学校長 本間 往徳 様

講話 「算数授業のここを変えたい」

ア) 子どもの目線で教材をみる

- ・初めて学ぶ子どもの疑問や戸惑いに着目した発問を考える。
- ・子どもの願いや思いに着目して、きめ細かく順序を丁寧に指導する。

イ) 場の状況を判断し、方向付ける

- ・顕在化している子どものかかわり方に即して次の一手を打つ。
- ・子どもの追求の状況に合わせて次の一手を変える。

ウ) 教師は教える人である

- ・教科書の問題や説明の「不足」、「あいまいさ」、「飛躍」、「問い」を補う。

② 第4回研修 10月9日(水) 研究授業

授業者 五泉市立川東小学校 渡辺 有紀 教諭

単元名 「面積」(第4学年)

指導者 五泉市教育委員会学校教育課 指導主事 清水 正明 様

<授業より>

複合図形の面積を工夫して求める学習内容であった。自力解決後、自分の考えを隣の友達に説明する場を設定することで児童は考えを整理し、順序立てて話している姿があった。全体での発表では、考えの似ているところや違うところを話し合い、教師が児童の言葉をつなぎながら分類していった。しかし、分類して考えを共有する場面で時間がかかり、類題をする時間がなかった。

<指導者より>

算数科では、「順序よく筋道立てて考える力」が大切である。そのために必要なことは、一人一人の考えを評価すること、一人一人の追求を妨げない学習ルール、考えるための時間を保障することである。

また、課題を明確にすることも大切である。課題—追求—評価において、必ず課題に立ち戻って評価することが必要である。

4 成果と課題

講師の先生方から算数科の授業において大切にすること、教材の捉え方、教師の役割等多くの事例を通し具体的に教えていただいた。毎日の実践につながる有意義な研修となった。授業研究では、課題提示や全体検討での手立てなどについて意見を出し合い、交流することで学んだことがたくさんあった。その学びを日々の実践に生かしていきたい。